

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570102295
法人名	医療法人社団 仁和会
事業所名	むつみ苑グループホーム池内の家
所在地	宮崎市池内町前吾田1096番地 (電話) 0985-39-6623
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22 年 3 月 30 日

## 【情報提供票より】(22年3月9日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	8 人

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,360 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

## (4)利用者の概要(3月9日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1		名	要介護2	3 名	
要介護3	4 名		要介護4	1 名	
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 87 歳	最低 74 歳	最高 97 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	竹内病院、 小村歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームには看板や施錠された門扉が無く、利用者と職員の和やかな対応に近隣の保育園児が散歩の途中に立ち寄り小学生が社会教育の一環で気軽に訪ねてくれたり、結婚退職した元職員が赤ちゃんを連れて遊びに来てくれる等外部からの人々が訪問し易い雰囲気がある。管理者・職員は地区の公民館で出前講座として認知症サポーター養成にスタッフとして参加し、地域の人々に認知症を理解してもらい取り組みを積極的に行い喜ばれている。この取り組みにより地区の事業所や民生委員との交流を深めることができ、地域住民の一人として地域と支え・支えられる関係作りが出来ている事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題を運営推進会議や職員会議で話し合い改善に向けて取り組み、事業所のサービスの質の確保に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義とねらいについて認識している。全員で自己評価に取り組み、事業所のサービスの質の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議には幅広い立場の人の参加を得て話し合いを行っている。同地区の事業所職員とのお互いの出席もあり、情報交換ができています。出された意見や要望はサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には何でも気軽に言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。家族から出された意見や要望は職員会議で検討し、家族に説明すると共に、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日々の散歩や買い物時には近隣の人々と気軽に挨拶・会話を交わしている。保育園児や小学生との触れ合いがある。職員は地区公民館で地域の人々を対象に認知症サポーター養成の出前講座の開催に参加し、地域との交流が取り組まれている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「日本一あたたかい家庭に……」を理念の柱に掲げ、11項目のわかりやすい言葉で、住み慣れた地域の中で利用者本位の生活を支える事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し、利用者との日々の関わりの中で常に話し合いの機会を持ち、意識づけを行いながら実践につなげている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々の散歩や買い物時など、近隣の人々と挨拶・会話を交わしている。保育園児や小学生との触れ合いがある。職員は認知症サポーター養成講座の開催に参加し、地域の人々から喜ばれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義とねらいについて理解しており、全員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価での課題について全員で話し合い、事業所のサービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は民生委員、地域包括支援センター職員、地区の福祉協力員、家族、同地区の事業所職員等幅広い立場の人の参加を得て2か月に1回開催している。事業所からの報告と共に評価結果に対する意見や要望をもらいサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を受け入れている。認知症サポーター養成出前講座にスタッフとして参加したり、研修会に参加する機会をとらえて市の担当課の職員に質問したりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は家族の来訪時や手紙、電話により本人や家族の状況に合わせてこまめに報告している。金銭管理は小使帳を確認してもらっている。職員の異動があった時は事業所に掲示し、紹介している。	○	ホーム便り等で、充実した利用者の生活ぶりをホーム全体の状況として、家族への報告や地域への情報発信として活かしてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には何でも気軽に言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。家族から出された意見や要望は、職員会議などで検討し家族に説明すると共に運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に際しては、その都度利用者や家族に説明、紹介している。また、管理者は職員の異動が最小限になるよう職場環境の整備に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は法人内外の研修を計画的に受けられる仕組みがある。研修内容はミーティングで発表しあい、共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。同業者同士の相互訪問や職員研修を行ってサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人や家族に来てもらって一緒にお茶を飲んでもらったり、職員が自宅を訪問するなど徐々に馴染んでもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の中には、お茶や民謡の師匠さん、料理の得意な方々が居られ、日々の関わりの中でたくさんの学びがある。職員の一人は、「料理が上手になったね」と褒めてもらい自信につながったと話していた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの思いや意向について関心を持ち、日々の関わりの中で声かけをして把握に努めている。利用者の中には、昔の友人・知人に逢ったり敬老会などに参加したいとの希望で、自宅での自治会に継続加入している方も居られる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員全員で意見交換やモニタリングを行い、本人や家族の思いや意見を反映させたものとなっている。介護計画は家族に説明し、理解が得られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月毎に定期的な見直しを行うと共に、本人、家族の要望や変化に応じて随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時等、必要に応じて通院の同行や、自宅での外泊や遅い時間の家族の面会など状況に応じて柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、本人および家族の希望するかかりつけ医を支援している。受診結果に関する情報の共有もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向をふまえ、医師、職員が連携を取り、安心して納得した最期を迎えられるように話し合い、随時意思を確認しながら取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護法の理解に努め、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや態度をとらない姿勢を日常的に心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日・その時の体調や気分に対応しながら、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣から頂いたつわ蒨の皮むきなどや調理、味見、片づけなど一人ひとりの力を活かしながら利用者と職員と一緒に楽しみながら行っている。食事も利用者と職員が同じ物を食べながら和気あいあいと会話し、楽しい雰囲気であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は毎日であるが、利用者のその日の気分に合わせて柔軟に支援している。入浴できない時は、清拭、足浴、ドライシャンプーなど対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自宅や買い物など行きたい所への外出、家族の協力による外出・外泊、買い物時のお金の支払い、洗濯物たたみ、訪問美容師による整容・化粧など一人ひとりの希望に合わせたおしゃれ等張り合いのある日々が過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は殆ど毎日利用者の希望に合わせて、近隣を散歩したり買い物に出かけている。歩行が少し弱い方もシルバーカーを押しながら散歩を楽しんでおられる。また隣接するグループホームと共有の芝生庭園で日向ぼっこしながらくつろぐこともある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は施錠することの弊害を認識しており、門扉も設けない自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に防災訓練を行い、近隣にも協力を呼び掛けている。マニュアル、連絡網が整備されている。職員は事業所の外回りにタバコの吸い殻が落ちていないかの見回り等日常的に火災予防に意識的に取り組んでいる。また、利用者と一緒にテーブルの下にもぐったり、座布団で頭を被ったり、レクリエーションの中で利用者の避難の動きを確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定を行っている。食事・水分摂取量はこまめにチェックし大まかに把握している。カロリー、栄養バランスについては母体施設の栄養士に助言もらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアから畳の間へはバリアフリーになっており、座卓やソファが置かれ、利用者がゆったりと過ごせるように配慮され、膝掛けが準備してある。廊下の壁には利用者が日頃楽しく過ごされている様子の写真が掲示され、利用者や来訪された家族にも喜ばれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、テレビ、鏡、化粧品等馴染みの品々が持ち込まれ、利用者が居心地よく安心して過ごせるよう配慮されている。		